

緒言

新型コロナウイルスの感染がなかなか沈静化しない。3月11日午後8時半現在で、また新たに1,319人の感染が確認された、東京・神奈川・埼玉・千葉の4都県では緊急事態宣言が再延長されたが、今日一日でも東京が330名、他の3県も120名を超える感染者が新たに確認された。昨年「緒言」でも取り上げた話題なので、これで丸一年が経過したことになる。当時は、まさかこれ程までにコロナウイルスが猛威を振るい、人々の社会生活に深刻な影響を及ぼし、しかもそれが長期にわたるとは思いも寄らなかった。希望の光としては、ワクチン接種が医療従事者（医師・看護師など）から始まったことであり、今後、基礎疾患のある人、高齢者、一般という順番で接種が行われる予定であり、これからの混乱なく進められることを願うばかりである。

同じ3月11日、東日本大震災が起きて10年目を迎えた。今なお避難生活を送る人は4万人を超え、東京電力福島第一原発事故により多くの避難者が出た福島県では、国の避難指示が徐々に解除されたものの、浪江町など7市町村ではいまだに帰還困難区域解除の見通しが立っていない。10年一区切りと言うけれども、被災者にとって遠い過去の出来事ではなかろう。人々の記憶が薄らぎ、風化していくことを危惧する。この10年の間に日本各地で発生した自然災害にも思いをはせ、個々人で果たすべき役割について考える必要があろう。私の研究分野は日本史学だが、過去を振り返り、現在を見つめ、そして未来を展望するという歴史学が担う学問的意義を改めて確認し、自分にできることは何か問い直したい。

そして今日3月11日、広島地方気象台が広島県内の桜の開花を発表した、平年よりも16日早く、今季全国で最も早い観測史上2番目という。江戸時代後期、広島藩主の浅野氏が築いた縮景園しゅくけいえんのソメイヨシノが標本木であり、気象台職員が6輪の開花を確認した。広島県の桜の開花は例年、東京よりも遅いので、このニュースには驚いた。

さて今年は、「厳島神社」と「原爆ドーム」が世界遺産に登録（1996年）されて25周年に当たる。世界遺産条約は国際的には1972年にユネスコ総会で採択されたが、日本が批准したのはそれよりも20年遅い1992年で、125番目の締結国として、先進国の中では最も遅かった。大切なのは、この20年間の空白の背景を考えてみることである。1972年と言えば佐藤栄作首相が退陣し、新たに田中角栄政権が誕生、いわゆる「日本列島改造論」のもと新幹線の開設など国土開発が盛んな頃であった。大気汚染や水質汚濁による「公害」もすでに問題化していた。大量生産・大量廃棄が進み、自然環境や文化財の保護が重要な課題となり、その後のバブル経済崩壊後にかけてえのない「モノ」を大切にする姿勢が多くの人々の共感を呼ぶようになった。1992年の国会承認はこうした歴史的背景のもとで実現したのである。

内海文化研究施設が創設されたのは、世界遺産条約が採択された1972年であり、来年は創設50周年を迎える。今こそ原点に立ち返って、本施設が果たすべき社会的責任を自覚しつつ、新たな一步を踏み出していかなければならない。

令和3年3月11日

広島大学文学部附属内海文化研究施設
施設長 本多博之

目 次

緒 言

岩国市立岩国学校教育資料館所蔵和古書分類目録

－「教科書」資料の部－……………妹 尾 好 信…… 1

山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（十五）……………久保田 啓 一……（33）

備中国と毛利氏

－『八箇国御時代分限帳』を読む－……………岸 田 裕 之……（1）

（ ）は縦組で裏表紙から